



昭和大学
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

Withコロナ時代へ向けて

歯内治療科 診療科長・教授 鈴木 規元

9月に入ったとはいえ、まだまだ暑い日が続いています。記録的な暑さだったこの夏、甲子園では107年ぶりに慶應義塾高等学校が優勝を飾り、大きな話題になりました。伸ばした髪の毛でいつもニコニコしながら秀逸なプレーをする選手たちの姿に胸をうたれ、新たな時代の到来を感じたのは私だけではないでしょう。

去る7月、日本歯内療法学会の第44回学術大会を、当科の主催で昭和大学上條記念館において開催いたしました。コロナ禍でオンライン開催が続いており、実に4年ぶりの対面開催となりました。どのような感染対策を施せばよいのか、現地に足を運んでいただけるのか、不安ばかりの大会運営でしたが、おかげさまでコロナ禍以前のように大勢の皆様にご参加いただき、盛会裏に大会を終えることができました。多くの方々が、久しぶりに一堂に会して直接語り合うことの楽しさ、喜びを感じて下さったからだろうと思います。

今、世の中は、さまざまな活動やイベントがコロナ禍以前のように行われ、街中で

はマスクを外している人も増えてきました。コロナ禍によってオンラインでの会議や授業などの手法が発達し、いろいろなメリットがあることもわかりましたが、やはり顔と顔を合わせ

て直接人と会話をすることは、以前に考えていたよりもはるかに大切なことであるように思います。

最近では感染者がまた増加しているとの情報もあり、まだまだ油断はできませんが、これからの“Withコロナ”時代、コロナ禍で得たメリットも活かしつつ、以前よりもさらに発展した世の中になるよう、我々も努力していかなければなりません。もちろん歯科病院では適切な感染対策を施した上で診療を行っていますので、安心して受診いただけます。

これから秋に向けて、一日の気温差が大きくなる時期です。体調を崩されぬようご留意されながら、秋を満喫していただければと思います。



- P1 巻頭言 Withコロナ時代へ向けて
- P2 診療科紹介 歯内治療科
- P3 歯科治療トピック 歯科放射線科
- P4 診療科紹介 障がい者歯科、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：歯内治療科

歯内治療科 診療科長補佐・助教 浦羽 真太郎

私たち歯内治療科は歯科病院4階西診療室で診療を行っております。例えば「骨」の内部に「骨髓」があるように、「歯」の内部にも「歯髓（しずい）」という組織があります。一般的に「歯の神経」と呼ばれているのは、この歯髓です。むし歯が進行して歯髓に到達すると、歯髓が炎症を起こし「歯髓炎」という強い痛みを生じる状態となります。

また、そこから更に感染が進むと炎症は歯根の外へ広がり、「根尖性歯周炎（こんせんせいししゅうえん）」という状態になります。

歯内治療とは、歯の内部に侵入した細菌や汚れなどを除去して、「歯髓炎」や「根尖性歯周炎」の改善・予防を行う治療です。歯を残すための基礎工事と言い換えてもいいかもしれません。最終的に詰め物や被せものを入れて噛めるようにした歯を、長期にわたって機能させていくための重要な処置であると感じていただければと思います。

歯はとても複雑な形をしています。私たちは、かねてより歯科用実体顕微鏡（マイクロスコープ）を積極的に活用して診療を行って

おります。マイクロスコープを使用することで、肉眼では確認できなかった歯の内部構造や感染源を拡大下で明らかにし、歯を保存できる可能性を高めるとともに、歯根破折（歯のひび）などの抜歯が適応となる疾患を早期に発見し、無駄な治療を避けられるようになりました。

また、症例によっては歯科用CTによる検査・診断を行い、通常の検査だけでは判断が難しい歯に対しても、可能な限り保存を試みることを目標としております。かかりつけの歯科医院から、通常の治療では治りが悪い歯や処置が困難な歯を中心に、当科へ多くのご紹介をいただいていることは、私たちの専門性の高い歯内治療をご信任いただいているからではないかと思っております。

一本一本の歯を、しっかりと残せるように診療に従事しておりますが、その反面、一回の治療時間が長くなってしまう、予約が取りづらいなど、ご不便をおかけしていることもあると思います。しかし、歯を永く安心して使っていただくために、当科での治療をお知り置きいただければ幸いです。



当外来では多くのマイクロスコープを運用しています。



歯内治療科のスタッフ（第44回日本歯内療法学会学術大会にて）

歯科放射線科のトピックは、歯科の専門病院では珍しくMDCT1台、歯科用CT2台の3台が稼働していることです。

1) MDCT : Multi Detector-row CTの導入



Multi Detector-row CT (MDCT) の写真です。横になって撮影します。

最初に導入された装置は、1990年、全身を撮影できるMDCTでした。患者さんは横たわった状態で撮影します。岡野友宏名誉教授が時代に先駆けて導入されました。その頃普及してきたインプラントの術前検査の重要な担い手として、たくさん活躍してくれました。この装置は現在で3代目になります。現在は歯科、頭頸部領域の検査に加えて、昭和大学歯科病院の内科クリニックの検査も行っています。

2) 撮影範囲の大きい歯科用CTの導入



顎顔面全体が撮影できる歯科用CTの写真です。座って撮影します。

次に、撮影範囲の大きい歯科用CTが導入されました。初代は、特任教授の榎宏太郎先生が開発に携わられた装置です。患者さんは椅子に座って検査を受けます。「椅子に座るから怖くない」と子供さんに言われたことを思い出しました。この装置は現在で2代目になります。主に顎変形症やインプラント、唇顎口蓋裂などの検査を行っています。

3) 撮影範囲の小さい歯科用CTの導入



歯数本など、小さな範囲に絞って撮影できる歯科用CTです。座って撮影します。

最後は、小さな範囲を撮影できる歯科用CTです。複雑な根管の形の3次元診断や、埋伏歯の3次元的位置を知るために使われています。こちらも椅子に座り検査を受けます。現在3代目です。

開業医の先生方からのご依頼も受付けております。検査画像に加えて歯科放射線科の専門医による読影レポートをつけて報告させていただいております。ぜひご利用ください。

最後に

エックス線の発生では、エネルギーの1%未満が有用なエックス線となり、残りの99%が熱エネルギーになります。連続使用によってCT装置の内部が高熱になりすぎるとエックス線を発生する高額な装置部分が壊れてしまうため、装置の温度を下げるために冷却時間が必要となることがあります。大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解をお願いいたします。

去年はMDCT検査が885件、歯科用CT検査は4,945件でした。症例数が多いことから、色々な症例の画像診断分析も行っています。

歯科放射線科では少しでも治療に役立つ有益な情報を提供できるよう日々心がけております。今後ともよろしくお願いいたします。

診療科紹介：障がい者歯科

障がい者歯科 診療科長補佐・助教 馬目 瑤子

障がい者歯科は、歯科診療に対し特別な配慮が必要な方々の歯・口の総合的な診療科になります。知的障害、自閉スペクトラム症、脳性麻痺、染色体異常、四肢体幹障害、統合失調症、筋ジストロフィー、脳血管障害、認知症など、さまざまな障がいや疾患のある方を対象に診療を行っています。障がいのある方にとって、お口に関連したさまざまな問題は解決することが容易ではないことが多いかと存じますが、是非当科までご相談ください。

【外来診療】

当科には0歳の赤ちゃんから100歳以上のご高齢の方まで幅広い年齢層の方が来院されています。車いすを使用されている方や、歩行が困難な方でも来院しやすい1階にあり、障がい者専用ユニット4台で診療しています。診療ユニットのうち1台は個室となっており、音に過敏のある場合にも配慮のできる体制を整えております。恐怖心や緊張が強い方には個人

の特性に配慮しさまざまな行動療法を用いたり、歯科麻酔科と連携して静脈内鎮静法にて歯科治療を行うなど、患者さんの安全を第一に、歯科治療による不安やストレスを最小限にすることを常に心がけています。

【全身麻酔下歯科治療】

治療歯数や治療時間、治療内容、精神的な影響などに応じて全身麻酔による集中治療を行っています。環境変化などを考慮し、入院日数を減らすよう治療当日に入院していただき、夕方には帰宅できるように対応しています。

歯科治療を受けること自体が難しくお困りの方がいらっしゃいましたらスタッフ一同、誠心誠意、対応させていただきますので、どうぞお気軽に障がい者歯科を訪ねていただければと存じます。

当科は患者さんの特性を考慮し、原則予約制とさせて頂いております。事前にお電話をいただきますようお願い申し上げます。



全身麻酔下 歯科治療
各専門診療科と連携し、診療を行っています。



障がい者歯科スタッフ

編集後記

9月の三連休最終日の敬老の日も、東京都心では厳しい残暑が続き、最高気温33.3度を記録しました。30度以上の真夏日の最多日数を更新し、今のところ（9月18日現在）は合計86日となりました。まだまだ日中は熱中症の対策が必要な日が続くと言われています。

年々残暑も厳しくなっております。引き続き熱中症など体調に気を付けてお過ごしください。

(M.I)

